

(5) 肢体不自由児施設のリビングケアの実態 ～職員に対するアンケート調査を基に～

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻 修士課程 杉本 明生

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 末光 茂

【要旨】

1. はじめに

近年、ノーマリゼーションの理念の普及により、障害者福祉分野は支援費制度、障害者自立支援法と施策の変革が進み、どんな障害を持っていても地域で生活することが求められている。しかし、肢体不自由児施設は重度化が進み、また、虐待等を含めた障害児の社会的な入園として生活場所となっている。人生の基盤を作る重要な時期に児童福祉施設である肢体不自由児施設で生活する利用者にとって将来にむけたリビングケアの構築を図る必要がある。そして、リビングケアに関する研究は必ずしも多くない。

2. 研究目的

将来地域で生活が予想される利用者に対し生活支援の内容を再検討し、リビングケアの構築を図る必要がある。そこで、肢体不自由施設でのリビングケアの実態と今後の課題について明らかにしたい。

3. 調査方法

全国の肢体不自由児施設を対象にアンケート用紙を郵送し、回答を得た。回収率は41.9%。施設の概要を調査する共通票と、個人の支援内容を調査する個人票を郵送した。個人票は、57名分の回答を得ることができた。今回は個人の支援内容の分析結果を中心に報告する。

4. 調査結果

支援型より自立型の方が家事支援と外出に関する生活支援ができていていること明らかになった。余暇活動と性教育の項目については明らかな差がでなかった。

5. まとめ

個別の余暇活動支援のプログラムと余暇活動支援のプログラムの作成が必要であることが明らかになった。今後の課題として、さらに、調査結果の年齢別の生活支援内容の分析と、自由記述の調査結果の整理・分析を行い、自立支援にむけたプログラム作成の課題について明らかにする。